

雜 錄

— 鐵鋼ニュース —

世界の鉄鉱埋蔵量調査

1951年国連経済社会理事会の決議に基づいて構成された世界の資源調査7人専門委員会はこの程調査を終り、345頁にのぼる報告書を発表した。世界の鉄鉱埋蔵量は845億8千万tと推定されている。

この埋蔵量が事実だとすれば世界の採掘量は年々増加しているけれども1951年の年間1億4千万tの水準を維持していけばそれは今後600年間分に相当するわけである。これを地域別、国別に分けると次の通り。(単位100万t)

地域別 アジア中東 26,000, 北米 14,100, 南米 19,700, 欧州(ソ連を除く) 16,480, アフリカ 4,100, 大洋洲 1,000

主要国別 インド 21,000, ブラジル 16,250, 米国 6,900, フランス 6,560, 中共 4,170, ソ連(欧州) 3,220, ソ連(アジア) 6,000, 英国 3,760, カナダ 3,371, 南阿 2,600, スエーデン 2,400, ヴェネズエラ 2,200, ドイツ 1,510

なお以上の数字は鉄含有量30~70%の鉄鉱だけをとつたもので、25%までの分も考慮すればブラジル、インド、南阿、カナダなどの埋蔵量の数字は数倍増えることになるものとみられている。

29年度の鉄鋼輸出

国際鉄鋼市況の好転により、わが国の鉄鋼輸出も昨年秋頃から著しく増加したが、この程通産省が調査したところによると、29年度(29年4月—30年3月)累計は2,049,598tに達し、戦後貿易再開以来の最高を記録するに至つた。各年度累計は次の通り。(単位t, 24年度は12月—4月, 25年は通産省のチェックを必要としていなかつたので不明)

22年度 20,700, 23年度 334,777, 24年度 284,302, 26年度 1,741,273, 27年度 1,437,163, 28年度 883,067, 29年度 2,049,598

29年度輸出の内訳は一次製品 1,360,480t, 二次製品 210,564t, 半製品その他 478,594tとなつており前年度にくらべていずれも2倍から3倍の増加となつておる。これを決済通貨地域別にみると圧倒的にオープン勘定地域が多く、次でポンド地域、ドル地域となつている。

ドル地域 205,785t, オープン勘定地域 1,092,444t, ポンド地域 751,369t

さらに主要仕向地別に見ると、アルゼンチンが全体の約30%を占め527,020t, 次でインドの308,424tで、両者でほとんど全体の半分に達している。

アルゼンチン 527,020, インド 308,424, タイ 82,150, 海峡植民地 56,020, 米国 53,641, 豪州 52,698, インドネシア 46,049, 英国 28,856, フィリピン 26,103, エジプト 11,769, その他 636,309.

一方これを品種別に見ると、棒鋼、亜鉛鉄板、厚板、ピレット、重軌条の順で、ピレットの増加が目立っている。

また銑鉄も異例として注目される。

棒鋼 325,690, 亜鉛鉄板 292,494, 厚板 285,243, ピレット 278,365, 重軌条 174,090, 銑鉄 95,200, 継目無鋼管(黒) 69,694, 帯鋼 28,750, その他 289,508.

電気メッキブリキの登場

八幡製鉄と東洋鋼板が昨年より新設を進めていた電気メッキブリキ設備はすでに試運転に入つており、4月末かおそくも5月から本格的な販売に入ることになる。

両社の新設備はいずれも主要部分は米国ウイーン社の製作になるもので、年間生産能力は八幡製鉄8万4千t、東洋鋼板5万tであり、又最大メッキ速度は八幡製鉄800ft、東洋鋼板300ft。設備所要資金は前者約13億円、後者が7億円となつている。電気メッキブリキはわが国では初登場のものであり、従来のホット・ディップ(熔融した錫を付着させる方法)とのかね合いで、将来どの程度にまでこれがホット・ディップの需要面に食いこんで行くかは注目されるが、先進国のアメリカの例をみると近々5、6年の間にホット・ディップのものを凌駕するまでになつてきていることから見て、ブリキに新しい時代をもたらすことになるものと見られる。

訪米鉄鋼生産性調査団員決定

この程鉄鋼生産性調査団員として次の諸氏が決定した。

団長 佐山励一(富士製鉄取締役、室蘭製鉄所副所長)  
副団長 迎田秀夫(淀川製鋼取締役、呉工場技師長) 団員 斎藤実(川崎製鉄兵庫工場総務部長) 同 北村勝雄(川崎製鉄労働組合連合会中央執行委員長) 同 乾昇(住友金属工業総務部長) 同 吉広秀雄(東都製鋼取締役企画部長) 同 深井弥平(日本金属工業取締役経理部長) 同 大河原正太郎(日本特殊鋼管取締役経理部長) 同 葛原義雄(富士製鉄広畑研究所長) 同 荻野敏雄(八幡製鉄アメリカ駐在員) 同 与謝野健(住友金属工業総務部政務課長) 同 土屋勤(日本鉄鋼連盟労働局次長) 通訳 小林義朗(日本鋼管ニューヨーク駐在員)

第1回大河内記念賞受賞者決定

故大河内正敏博士(元理化学研究所長)の功績を賛えるために昨年4月発足した大河内記念会は、3月28日第1回大河内記念賞の受賞者を選定した。受賞者次の通り

大河内記念賞(賞状, 賞牌, 賞金50万円)  
放電加工法の発明とその応用—鳳誠三郎外5氏  
大河内記念技術賞(賞状, 賞牌, 賞金各5万円)  
トランスファーマシンの研究とその実施—坂勇外3氏  
その他3件

大河内記念生産賞(賞状, 賞牌)

ペレダイジングの研究とその工業化—川崎製鉄株式会社千葉製鉄所(本協会推薦)

分塊ロール機の庄延分野の拡張—八幡製鉄株式会社, 八幡製鉄所条鋼部鋼片課六分塊機, その他3件  
なお表彰式は5月7日丸の内生命保険協会で行われる。